

令和 3 年 2 月 19 日

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究 A	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
551132	
選定番号	107

代表者 校園名： 大阪市立開平小学校
 校園長名： 赤銅 久和
 電 話： 06-6203-4212
 事務職員名： 長谷川 妙
 申請者 校園名： 大阪市立開平小学校
 職名・名前： 主務教諭 椿本恵子
 電 話： 06-6203-4212

令和 2 年度 「がんばる先生支援」 研究支援 報告書

◇令和 2 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ		地域文化としての郷土の伝統音楽を軸とした 教科横断的なカリキュラムデザインの探究		
3	研究目的		音楽科における「郷土の伝統音楽」の教材を地域文化の視点で捉え、他教科・領域との横断的なカリキュラムデザインを探求することを目的とする。児童が、自分たちの生活経験を踏まえ、現代の生活とのつながりを見出し、新たな価値観を形成していくことができるようカリキュラムデザインを開発していく。		
4	取り組んだ 研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSゴシック 10pt イント）</p> <p>まず、昨年度までの本校における①郷土の音楽を教材とした音楽科単元の抽出と、②本校における郷土についての学習単元（全教科・領域）の抽出を行った。</p> <p>本年度、本校では、新学習指導要領全面実施にあたり、全教科・領域のつながりが一目でわかるように本校カリキュラムを作成した。抽出した郷土についての学習単元の関連を、そのカリキュラムに加筆することで、授業者が常に教科・領域の関連を意識しながら各授業を展開したり、1年間、さらには6カ年を通じたカリキュラムの中に、どのように位置づく学びであるのかを意識したりすることができるようとした。本年度、郷土の伝統音楽のフィールドワークを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、さまざまな郷土の伝統音楽が関わる行事・祭りが中止になったことなどを踏まえ、実地調査ではなく、これまでの実地調査資料を再分析した。</p> <p>このような計画を4月～6月に立案し、7月～2月に各学年における実践（15実践）を行った。授業は、すべて映像と写真で記録することで、児童の発言による思考の流れを分析できるようにした。また、児童のワークシートもすべて記録し、系統的なワークシートを作成していくことができるようとした。これらの授業記録（映像・写真・ワークシートデータ）は、各実践ごとに分析し、次の実践における改善点を明確にした。実践後、すぐに授業記録を分析することで、適時性をもった授業改善を図り、実践を積み重ねていくことができた。</p> <p>本年度、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、「授業時数が削減したこと」「授業の適時性が失われたこと（祭りの中止など）」により、授業案の改訂が必要となるものもあったが、適宜、改訂を行い実践をすすめた。しかし、本年度実践できなかったものについては、昨年度の児童の様子を分析し実践報告としてまとめることで、小学校全学年における郷土の伝統音楽を軸としたカリキュラムデザインを考えていくことができるようとした。</p> <p>また、開平小学校音楽科単元デザインを開発したことで、各実践のポイントを一見し、取り組むことができるようになった。年度末には、令和2年度実施カリキュラムを再検討し、令和3年度計画カリキュラムを作成した。本年度中に、次年度の計画カリキュラムを立案することで、単年度の取り組みに留まらず、本校における取り組みの柱としていくことができるようとした。</p> <p>まとめとして作成した紀要には、実践報告（15本）と合わせ、授業映像・各種提示資料・ワークシートなどをデータ添付することで、誰もがすぐに実践していくことができるようとした。</p>			

		<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p>
		<p>【見込まれる成果1】</p> <p>○教科・領域横断的なカリキュラムデザインを視覚化することで、全教職員が、学びの関連性を意識した実践を行うことができるようになる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>○計画カリキュラムを実施していく中で見えた課題を隨時カリキュラム表にまとめていくことで、教科・領域のつながりを明らかにする。</p> <p>[検証結果と考察]</p> <p>教科・領域横断的なカリキュラムデザインを視覚化する手立てとして、各単元ごとに「開平小学校音楽科単元デザイン」を整理した。地域学習として郷土の伝統音楽を教材化するにあたり、①生活経験とのつながり、②音楽科における学びの積み重ね（縦のつながり）、③他教科・領域とのつながり（横のつながり）を一見することができるよう、単元デザインとして図式化した。それにより、授業者が常に、その授業が、カリキュラムにどのように位置付き、次にどのようにつながっていくのか意識し、授業展開を考えていくことができるようになった。</p>
		<p>【見込まれる成果2】</p> <p>○地域と連携した教材開発を行うことで、より地域文化としての「郷土の伝統音楽」のよさを見出し、地域への愛着をもつことができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>○活動の事前・事後アンケート（教職員・児童）を実施し、児童が新たに見出した感じる地域文化の項目数を上昇させる。</p> <p>[検証結果と考察]</p> <p>実践事前・事後アンケートにおいて、子どもたちの郷土の伝統音楽への新たな気付きは、児童の意識、教職員の実感ともに向上した。郷土の伝統音楽を新たに知ったということに留まらず、音楽を起点とし、さまざまな地域の特色に気付いていくことができたと実感している児童が多くいた。他教科・領域における学習において、特に、総合的な学習の時間の地域学習においては、音楽科における学びと関連した気付きが表出されるようになった。より主体的に地域とのかかわりを感じ、学びを進めていくことができるようになったことは、地域への愛着をもつことができたためだと考える。</p>
5	成果・課題	<p>【見込まれる成果3】</p> <p>○自らの身体を通した「郷土の伝統音楽」を学ぶ場を設定することにより、自ら新たな価値観を形成していくことができるようになる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>○パフォーマンス評価を取り入れ、子どもたちが自ら指針をもって活動に取り組むことから、自己評価・他者評価のポイントを上昇させる。</p> <p>[検証結果と考察]</p> <p>身体を通して「郷土の伝統音楽」を感じる場を設定したことでの音楽が伝承されてきた文化的背景を一体として感じ、学びを推し進めていく姿がみられた。生活とのつながりを感じる手立てとして、各単元末に「パフォーマンス課題」を設定したことにより、自らの郷土の伝統音楽に対する価値づけを、主体的に行っていくことができた。また、ループリックを共有し活動することで、自己評価のみならず他者評価の視点が共有された。活動が深まるにつれ、ループリックの視点がより詳細なものとなり、評価のポイントの上昇につながった。よって、子どもたちが主体的に学びの深まりを求めるにつながったと考える。</p>
		<p>【見込まれる成果4】</p> <p>○教科・領域横断的なカリキュラムとして、より文化的な背景を捉え、地域文化としての価値を見出すことができるようになる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>○教職員・児童アンケート「音楽科における学習が、どのような学習と関連づいていたか」における記入項目数を事前よりも事後で上昇させる。</p> <p>[検証結果と考察]</p> <p>教職員・児童アンケート項目「音楽科における学習は、他の教科・領域のどのような学習とつながっていたか」において、すべての単元において、他教科・領域とのつながりを感じながら、学びを推し進めていたことが明らかになった。教職員においては、研究メンバーが立案した指導案を、各単元における「音楽科単元デザイン」を中心に、学級担任と共有することで、他教科・領域における学習場面においても、音楽における学びを意識した活動展開につなげていくことができた。このような教職員の授業づくりに対する意識改革が図られた姿は、本研究における成果であると考える。</p>

研究コース

グループ研究A

選定番号

107

代表校園

大阪市立開平小学校

校園長名

赤銅 久和

		【見込まれる成果5】 《検証方法》 〔検証結果と考察〕																																
		【見込まれる成果6】 《検証方法》 〔検証結果と考察〕																																
5	成果・課題	<p>【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。</p> <p>研究当初に、全教科・領域のつながりが一目でわかるように本校カリキュラムを再編し、各教科・領域で取り組まれている地域文化を教材とした単元の抽出、関連の再検討を行ったことで、研究メンバーのみならず、全教職員が、個々に授業を進めるのではなく、カリキュラムにどのように位置付くのかを意識しながら、授業を展開していくことができるようになった。これは、授業づくりに対する教師の意識改革が図られた成果であると考える。また、実践をすべて記録することで、デジタルポートフォリオとして、児童と教職員が共に活用していくことができた。本研究を通して、「令和2年度開平小学校計画カリキュラム」をもとに、全教職員が週案立案・授業案立案を進めたことで、適宜変更点を「計画カリキュラム」に追記し「令和2年度実施カリキュラム」として整理できた。このようなカリキュラムづくりのサイクルを教職員全員が感じることができたことも、本研究の成果であると考える。</p> <p>今後の課題として、地域教材をさらに有効活用することができるよう、さまざまな教科・領域の観点からカリキュラム再編し、より地域学習を深めていくことができるようにならねたい。</p> <p>《代表校園長の総評》</p> <p>本校における教育の柱の1つである音楽教育の軸として、郷土の伝統音楽を取り入れていくことで、地域学習を発展させていくことができた。これは、本校の学校教育目標である「船場に学び、未来を切り拓く子どもを育成する」を具現化した取組であったと言える。</p> <p>また、本年度改訂された新学習指導要領に基づいた研究であったことから、新たな授業づくりの視点が共有され、教職員の授業づくりへの意識改革につなげていくことができるものとなった。このようなカリキュラムを意識した取組は、本校のカリキュラムデザインを考えていく上で、有用な研究であったと考える。</p>																																
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	<table border="1"> <tr> <td colspan="8">研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</td> </tr> <tr> <td>日程</td> <td>令和</td> <td>年</td> <td>月</td> <td>日</td> <td>参加者数</td> <td>約</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="7"></td> </tr> </table>	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。								日程	令和	年	月	日	参加者数	約	名	場所								備考							
研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。																																		
日程	令和	年	月	日	参加者数	約	名																											
場所																																		
備考																																		